

資料3

新たな 都立中央図書館整備に 係る有識者会議 (第3回)

令和8年2月3日



目次

- 1 石川県立図書館について（事例研究）
- 2 新たな図書館が目指す将来像について（検討事項）

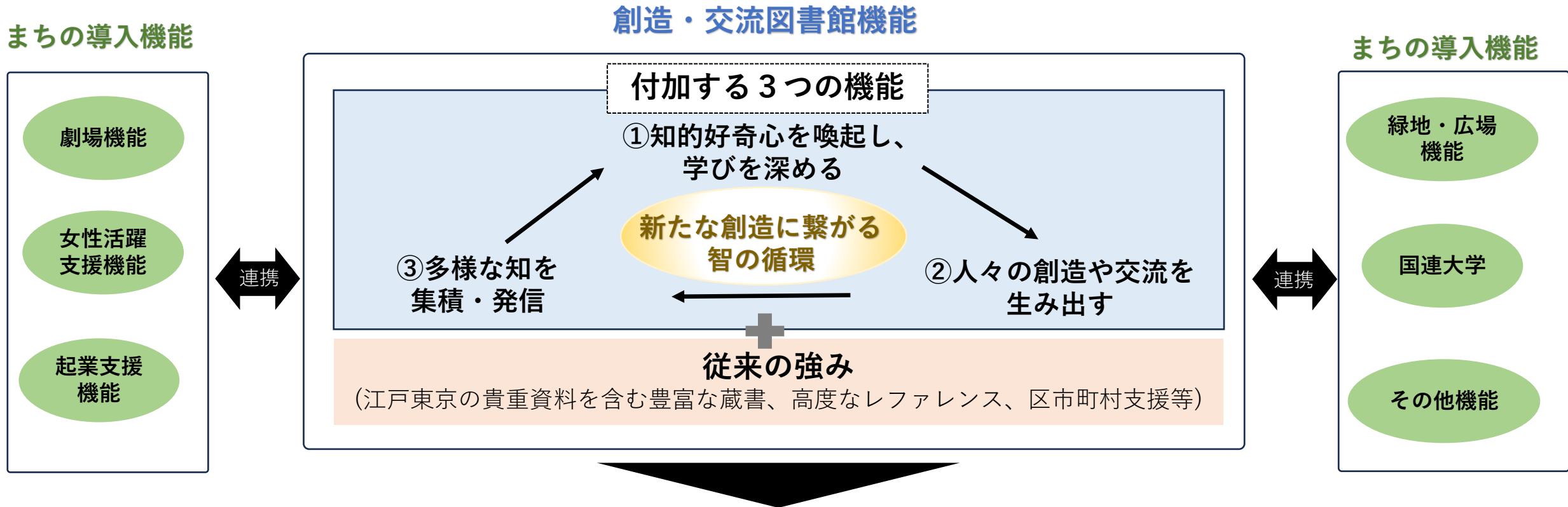
1 石川県立図書館について

- 田村館長からのご説明
- 意見交換

2 新たな図書館が目指す将来像について

新たな図書館と神宮前五丁目まちづくりの関係について

- ・都立中央図書館の在り方では、「**Library for Creation**」を新たなコンセプトとして、移転先である神宮前五丁目地区のまちづくりの中で、従来の強みを生かしながら、**付加する3つの機能を具現化し、新たな創造に繋がる智の循環**を実現
- ・神宮前五丁目地区のまちづくり方針では、図書館は**当地区のまちづくりの軸**として、様々な機能等と相乗効果を発揮しながら、「**智の創造拠点**」の実現に寄与



まちの導入機能と相乗効果を発揮しながら、まちづくりの将来像である「誰もが集い・つながる「智の創造拠点」」の実現に寄与

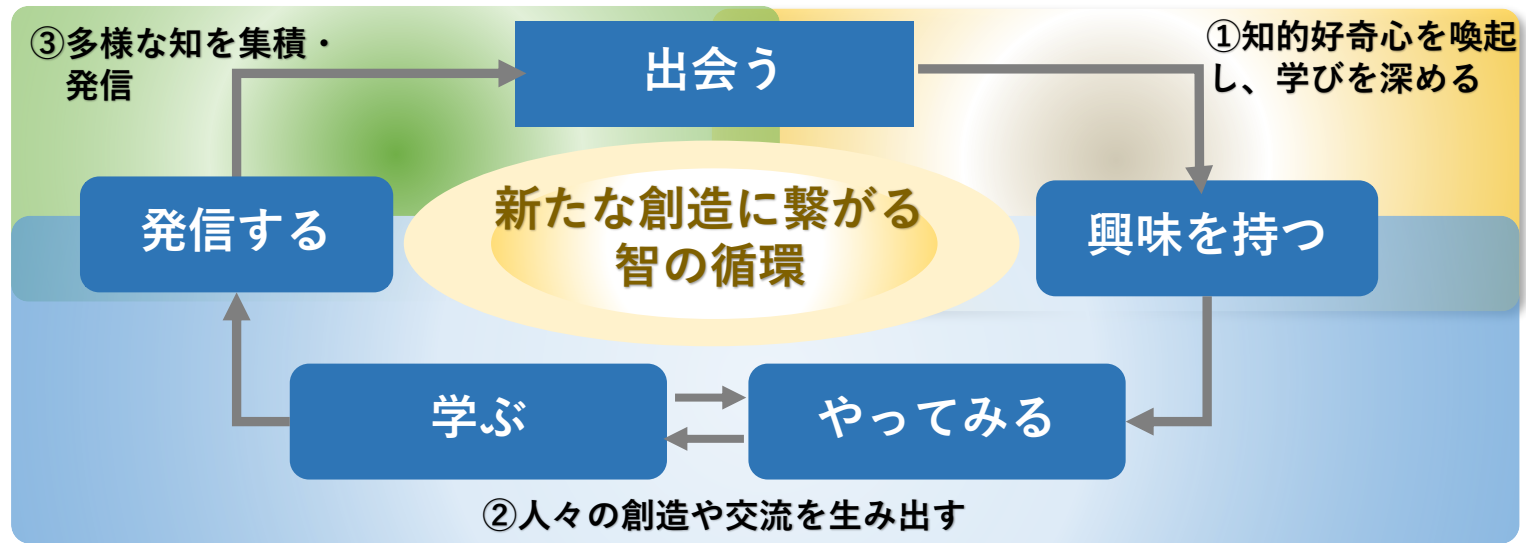
現在の都立中央図書館の強みと特色について

	都立中央図書館	区市町村立図書館
役割・機能	<ul style="list-style-type: none"> 都立図書館は中央・多摩の2館体制として、「都民の課題解決の総合的な窓口の役割」及び「図書館職員向けの研修、蔵書の協力貸出、調べ学習等の学校支援などの都内区市町村立図書館の支援」 中央図書館は調査研究に役立つ豊富な資料や充実したサービス、多摩図書館は雑誌・児童青少年サービスとして機能を分担 	<p>地域の実情に即したきめ細かな直接サービスを実施</p>
蔵書	<ul style="list-style-type: none"> 原則1点のみ収集、蔵書数約232万冊（国内公立図書館で最大級） 文学だけでなく自然科学や技術系の本を多く所蔵 	<p>予約状況等に応じ複数点収集。文学、実用書の割合が大きく、一定期間で除籍</p>
コレクション	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代後期から明治時代中期の資料を中心に約24万3千点を特別文庫室に所蔵 英語を中心に、ドイツ語、フランス語ほか外国語で書かれた資料の所蔵 東京都の行政資料及び東京に関する資料を所蔵、明治以降の地図を多数所蔵 全国の県史、市史、町村史等の地方史を多数所蔵 美術全集や展覧会目録など約7万5千冊所蔵 	—
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 都市・東京情報、ビジネス情報、法律情報、健康・医療情報の4つの分野について重点的に情報を集めたコーナーを設置。また、多くの資料が開架で利用可能 調査研究に役立つ高度・専門的なレファレンスサービス（年間4万件超） 例）商品・サービス等の最新トレンド、ヒット商品がわかる情報源、日本橋の薬祖神社の祭礼や医薬品産業とのかかわりに関する資料 等 都内区市町村立図書館などからのレファレンス依頼にも対応 資料保全のノウハウを公開し、全国の図書館にも共有 オンライン音訳サービス、視覚障害者等のテキストデータの制作・提供等、誰もが使いやすいサービスの実現に向けた取組の実施 豊かな自然に囲まれた空間での読書環境、近隣の大使館等と連携した展示 様々なサービスの提供を支える職員体制 	<p>主に教養やレクリエーションに役立つ、地域住民の生活に寄り添った身近で利用しやすいサービス 必要な資料が入手可 冠婚葬祭、DIYなど身近な暮らしに関わる相談が可能</p>

都立中央図書館の基本計画の方向性について

- ・基本計画では、在り方等を踏まえ、具体的なサービス内容や施設、空間づくりへと繋げていくため、図書館が目指す将来像を示す予定
- ・将来像を導き出すにあたって、3つの機能を具体化し、これまでの有識者会議での意見や、図書館の強み、まちづくり等の検討の視点を踏まえ整理していく

(新たな智を生み出す行動のプロセス (智の循環))



検討の視点

世界都市東京の図書館

江戸・東京の歴史や文化が感じられる

当地区（渋谷）の特性やポテンシャル

まちづくりの導入機能の連携や周辺機関が参画

最先端のデジタル技術

豊富な蔵書、レファレンス、区市町村立図書館支援

多様な学びができる（静かに学ぶ、ラーニングコモンズ）

子供から大人、障害者誰もが利用できる（インクルーシブ）

利用者が自由に創作活動ができる

利用者同士で交流できる

共に創り上げる

居心地が良いと感じる

渋谷では希少な自然環境（琵琶池・高低差・緑）

憩いの場

新たな図書館が目指す将来像（案）について

- ・都立中央図書館の在り方やまちづくり方針を踏まえ、新たな図書館が目指す4つの将来像を提示
- ・それぞれの将来像の目的を明らかにしたうえで、新たな図書館における活動イメージを利用者の目線から例示

（1）世界都市東京の知の広場となる図書館

【目指すもの】

- ・世界都市東京の図書館として、周辺施設と連携し、人々に様々な知との出会いを提供
- ・産業界・学术界・観光客・生活者など渋谷に集まる多様な人々の参画と交流を促進
- ・世界都市東京にふさわしいシンボリックな図書館
- ・海外図書館の最新の事例等を区市町村立図書館ひいては全国の図書館に共有

【キーワード】

世界都市東京の情報のハブ、江戸・東京の歴史や文化、渋谷、まちづくりとの連携

【利用者の活動イメージ（例）】

- ・豊富なかつ魅力的なテーマ別配架により、興味を惹かれる1冊と出会う
- ・本の世界を音楽で表現するコンサート、3Dプリンターで本の世界を再現など、多様な体験ができるプログラムに参加
- ・スタートアップ企業による最先端技術のデモンストレーション体験
- ・国連大学との共同による国際的な課題を考えるワークショップに参加
- ・江戸・東京関連の貴重資料を用いたデジタル展示を閲覧
- ・外観や内観に魅了され、興味関心を抱く
- ・海外図書館や大使館との連携イベント等に参加
- ・劇場の公演内容に合わせた書籍を集中的に展示

（2）知を広げ、学びを深められる図書館

【目指すもの】

- ・都立図書館の蔵書の充実と高度なレファレンスサービスの提供により、都民の課題解決や都施策に積極的に貢献
- ・多様な学びの環境を提供する図書館
- ・都内の区市町村立図書館との連携協力の充実

【キーワード】

調査研究、多様な学び、非来館（デジタル）、レファレンス、区市町村支援

【利用者の活動イメージ（例）】

- ・司書による企画展示やテーマ別配架等を見て、思いもかけなかった本に出会い新たな発想が浮かぶなど、読むことが楽しいと思える
- ・司書によるレファレンスサービスにより、課題解決のきっかけを得られる
- ・静かに学ぶ、ラーニングコモンズで相談したりディスカッションするなど、多様な学び方ができる
- ・遠隔地からも、デジタル技術を活用して都立図書館の貴重書等にいつでもアクセスできる（VR技術の活用、TOKYOアーカイブ 等）

（3）誰もが創造・発信を生み出せる図書館

【目指すもの】

- ・子供から大人、障害者など誰もが、やってみることができる、それを自由に発信できる
- ・様々な人々と交流し、新たな考え方や価値観に触れることができる
- ・時代の変化に合わせたプログラムを提供できる、可変的で柔軟性のある空間・機能

【キーワード】

インクルーシブ、共創、インタラクティブ、創造・交流

【利用者の活動イメージ（例）】

- ・推しの本を紹介したり、創作の成果品を展示したり、自由に発表したりする
- ・江戸や世界のレシピ本を再現した料理や、劇場の公演内容にちなんだメニューを作ったり食べたりできる
- ・学んだ成果や創作したものを残せる
- ・3Dプリンターで本のワンシーンを再現し、利用者同士でイメージの違いを伝え合う
- ・江戸時代の遊び道具を活用し、楽しみながら文化や言葉に触れられる
- ・読む、見る、触る、聞く等、様々な形で本に触れられる

（4）自然と調和した緑と水の憩いの図書館

【目指すもの】

- ・琵琶池や敷地内の高低差等、貴重な自然環境及びその土地が持つ歴史を活かし、貴重な水と緑が存在する場所として、人々が憩い集える場を目指す。
- ・人々がフラッと立ち寄ることができる開かれた空間で、居心地良くリラックスして過ごすことができる

【キーワード】

自然、緑、憩いの場、希少性（都心のオアシス）

【利用者の活動イメージ（例）】

- ・自然を感じられる空間でリフレッシュできる
- ・緑に囲まれた落ち着いたカフェやレストランで、のんびりできる
- ・自然を眺めながらゆっくり読書ができる
- ・シームレスで半屋外的な空間に、「迎え入れられている」「開放的である」と感じ、思わず図書館に入りたくなる
- ・まち中のいたるところで、スマホ等でイベントに関連した本の一節に触れ、関心が深まる